

令和 7 年度 江戸崎総合高等学校自己評価表

目指す学校像	1 規律を重んじながら生徒一人一人の個性を伸ばす、創意と活力に満ちた学校 2 地域の様々な教育的ニーズに応える、生徒、保護者及び地域住民に広く信頼される学校 3 探究による学びを通して、生徒一人ひとりの興味・関心、能力・適性に応じた進路の実現ができる学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
1 学力や学習意欲に関して多様な生徒に対応するため、進学クラスの設定や少人数による授業展開（英語）を実施している。また、生徒主体による中学校での出前授業をはじめ、地域連携活動を通して、生徒の自己肯定感・有用感を高める指導を推進している。さらに、各種検定試験の受験を推奨し、3年次における資格取得率が向上するなど、一定の成果をあげている。 2 進路希望は、就職から国公立大学進学まで、生徒一人ひとりの希望は多岐にわたっている。就職については、学校を通しての就職内定率が約 99%になるなど、高い実績をあげている。進学については、生徒の希望に応じた組織的かつ継続的な取組により全員の進路実現を果たした。 3 生徒の規範意識を高めるため、積極的な生徒指導を行っている。朝の昇降口指導や服装指導を全職員で継続することによって、生徒の生活態度は改善した。また、きめ細かな交通安全指導を継続し、一定の成果が見られた。家庭と連携した指導と教職員全体の指導実践をさらに一致させ、指導・支援体制をより強固にしている。 4 生徒会役員の定例会を毎週 1 回行っている。また、応援団、文化祭実行委員会に多くの生徒が積極的に参加するようになった。ボランティア活動にも熱心に取り組んでいる。特別活動を通じた活動記録を、「江総ポートフォリオ」（キャリアパスポート）に記録している。	基礎学力の向上と個に応じた学力の定着に向けた授業改善	・授業に臨む基本的な態度を育成し、学力の定着を図る。また、主体的に学ぶ意識を育成する。 ・I C Tを活用した教育の推進を目指すと共に、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる。 ・生徒に興味・関心を持たせる授業を工夫し、知識・技能の習熟を図る。また、各種検定試験の合格を目指す。 ・生徒の授業満足度について、生徒による授業評価「授業を通して、知識や技能(技術)が身に付いた」「授業を通して、考えたり表現したりする力が身に付いた」での肯定的意見 8 割以上	B
	基本的生活習慣の確立と規範意識の育成	・頭髮・服装・遅刻指導について、日常的・継続的な生徒指導を徹底する。 ・保護者に対して、様々な機会を通して規則・規律の尊重についての理解を求める。 ・生徒指導に対する職員間の共通理解を深め、一致協力して指導・支援にあたり、充実させる。 ・授業や学校行事で 5 分前を意識した行動に努める。	B
	進路希望の実現と指導体制の確立	・生徒の多様な進路希望をふまえ、個に応じたきめ細やかな進路指導の充実を図る。 ・インターンシップを実施し、進路について自ら考え主体的に決定できる力を育てる。 ・「産業社会と人間」の時間の一層の充実に努め、3年間を見通した進路シラバスに基づく指導を実践する。 ・模擬試験や資格取得を推進し、進路希望の実現を図る。	B
	地域と連携した学校づくりの推進	・家庭や地域社会と連携した、開かれた学校づくりに務める。 ・「各県立学校等チャレンジ・プロジェクト」を通して、地域貢献、地域連携、地域共生を目指す。	B
	生徒の主体的活動の充実	・部活動へ積極的に参加し、学校生活への興味・関心を高める。 ・学校行事や生徒会活動に積極的に参加できる工夫をする。 ・勤労体験やボランティア活動を通して心の育成を図る。	B

5 勤務時間外の在校等時間が45時間を超過する月がある教員が一部存在する。 テレワークシステム、勤怠管理支援システム、電子決裁システムなどを導入し、教職員が働きやすい勤務環境を整備し、教職員のワークライフバランスの実現を図る必要がある。		働き方改革の推進	・「勤怠管理支援システム」を活用し、教職員の時間外在校等時間と業務分類に応じた時間数の正確な把握を行う。 ・ワークフローシステムを導入し、学校における資料の電子化を推進する。 ・テレワークシステムを導入し、校務効率の向上を図る。 ・定時退勤時間の設定等をととして、教職員の働き方改革に対する意識を高める。		B
三つの方針		具体的目標		評価	次年度（学期）への主な課題
「三つの方針」（スクールポリシー）	「育成を目指す資質・能力に関する方針」（グラデュエーション・ポリシー）	（長期的目標） ○自ら学び、自ら考える意志をもって、意欲的に学習活動に取り組むことができる生徒 ○江戸崎総合高校生としての誇りをもち、地域社会の発展に貢献できる生徒 ○調和のとれた豊かな人間性や社会性を備え、よりよい社会を実現しようとする生徒		B	「総合的な探究の時間」や「チャレンジプロジェクト事業」、そして地元自治体との連携強化を更に進めることにより、生徒の持続可能な社会の創り手としての意識を醸成する。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」（カリキュラム・ポリシー）	（中期的目標） ○生徒一人一人の個性を伸ばし、個々の教育的ニーズに応じた教育内容の充実 ○進路希望の実現に向けた、キャリア教育の充実 ○ICTの活用など多様な学びの機会を通した、広く社会で通用する思考力・表現力の涵養		B	B ICTを効果的に活用し、個別最適な学び・協働的な学びに繋がる授業改善に努め、社会に求められる生徒の資質・能力の向上を図る。
	「入学者の受入れに関する方針」（アドミッション・ポリシー）	（短期的目標） ○互いを認め、高め合って協働し、切磋琢磨しながら成長しようとする生徒 ○基本的生活習慣と基礎学力を身に付け、意欲的な学習を継続しようとする生徒 ○進路希望の実現に向け、主体的・意欲的に行動しようとする生徒		B	基本的生活習慣と基礎学力を身に着けるためにきめ細かな指導・助言を行う。目標を持ち主体的に進路希望が実現できるよう支援する。

※評価基準： A：十分達成できた B：達成できた C：やや不十分だった D：不十分だった

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期) への主な課題
教科指導		①基礎学力の定着を図る。	・ I C Tを活用した教育の推進を目指すと共に、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる。 ・ 生徒支援を通して授業に臨む基本的な態度を育成する。	B	B	生徒支援を通して生徒が主体的に学習に取り組む態度を育成する。
		②生徒による授業評価「授業を通して、知識や技能(技術)が身に付いた」「授業を通して、考えたり表現したりする力が身に付いた」での肯定的意見 8割以上	・ 授業改善推進チームを中心とした、研究授業、授業相互参観、校内研修等の実施 ・ 生徒による授業評価アンケートを活用した定期的な授業改善状況の分析	B		教員相互の授業参観や校内研修を積極的に実施し、学校全体で授業改善に取り組む。
教 科	国 語	①生徒による授業評価生徒による授業評価「授業を通して、知識や技能(技術)が身に付いた」「授業を通して、考えたり表現したりする力が身に付いた」での肯定的意見 8割以上	・ 国語の一般常識の学習や語彙学習を行い、基礎学力の向上を目指す。	B	B	次年度も継続する。
			・ 達成目標や評価規準を明確にし、言語活動を充実させ、学習意欲を引き出す。	A		ICT 機器を使った言語活動を充実させていく。
		②大学進学・就職活動に対応できる学力を育成する。	・ 3年次に小論文を指導できる体制を作る。	B		次年度も継続する。
			・ 授業や個別指導を通して、様々な希望に対応する。	B		次年度も継続する。
	地 歴 公 民	①生徒による授業評価生徒による授業評価「授業を通して、知識や技能(技術)が身に付いた」「授業を通して、考えたり表現したりする力が身に付いた」での肯定的意見 8割以上	・ 授業に臨む基本的な態度を育成するとともに、基本的な事項や時事問題についてどの生徒も理解できるよう、テーマや新聞などの教材を工夫する。	A	B	次年度も継続する。
			・ 大学入学共通テスト・一般入試対応や就職試験対策などの演習を行うとともに 授業中も机間指導を積極的に取り入れ、生徒の実態に応じた指導を展開する。	B		生徒の進路希望を意識した指導方法を工夫する。
		②地域に対する理解を深め、郷土愛の精神を育成する。	・ 授業に地域の歴史・地勢・風土などの話題を取り入れることで、地域に対する理解を深め、地域を大切にする姿勢を育てる。	B		ICT 機器を含む教材を積極的に活用する。
	数 学	①基礎学力の定着を図る。	・ 単元の導入やまとめに既習事項の確認を行い、生徒の理解度に合わせた指導をする。	A	B	次年度も継続する。
			・ 日頃から家庭学習用のプリント課題を作成し、学習習慣の定着を図る。	B		家庭学習をさらに促していく。
			・ マナトレを活用し、既習事項の学び直しをすることで、知識の漏れをなくす。	A		次年度も継続する。
		②生徒に数学を学ぶ意義を実感させ学ぶ意欲の向上を図る。	・ 授業で学習した知識を活用する活動を定期的に取り入れ、数学の有用性を実感できるようにする。 ・ 少人数指導により、個々に応じた指導を行う。	B		定期的に取り上げることができるようにする。
		③入試に対応できる学力の定着を図る。	・ 放課後や休み時間を利用した課外を通して、より難易度の高い問題に触れる機会をつくる。 ・ 個々の能力に応じてプリント等を用意し、レベルの高い内容を学習させる。	B		課外の頻度を上げていきたい。
	理 科	①生徒による授業評価生徒による授業評価「授業を通して、知識や技能(技術)が身に付いた」「授業を通して、考えたり表現したりする力が身に付いた」での肯定的意見 8割以上	・ 基本的な知識や概念を授業などで繰り返し取り上げ、小テストや演習問題で定着を図る。	B	B	次年度も継続する。
			・ 個々に応じた課題を生徒に課し、学習習慣を身に着けさせる。	A		
		②大学進学に対応した指導の充実を図る。	・ ICT 活用などにより授業展開や実験などを工夫し、興味・関心を高め、思考を深める。	B		化学室の電子黒板の修理、改善。
	保 健	①社会生活で必要とされる知識の定着を図る。	・ 卒業後の社会生活を送るうえで必要とされる基礎的な知識を、繰り返し取り上げ定着を図る。	A	A	・ 実生活に繋がるような基礎的知識の学習活動をしていく。
		②学習意欲が高まるような指導の工夫を図る。	・ 視聴覚素材の効果的な活用や、生徒にとって身近な話題や問題を積極的に取り上げることにより、生徒の興味・関心を促す。	A		動画や話し合いの場を設け協力して活動してく場を設ける。

教	体 育	③技能・体力の向上を図り、生涯スポーツの獲得を目指す。	・技能を身に付け体力の向上を図るための資質・能力の育成を図り、生涯スポーツを獲得するために積極的に授業に関わるよう指導する。	A		生徒が自ら活動できるような環境を整えていく。
	芸 術	①生徒による授業評価「授業を通して、知識や技能(技術)が身に付いた」「授業を通して、考えたり表現したりする力が身に付いた」での肯定的意見 8 割以上	・芸術的活動を通して、感性と教養を向上させ、実生活の中で表現されたものへの気付きや感性を高める。 ・可能な限り個々の技術的レベルに沿って、表現体験の実現を目指す。	A	A	理解度に合わせた授業内容を継続して工夫、検討していく。 幅広い表現体験を検討していく。
		②個性豊かな表現力を伸ばす。	・形や指示に沿うのではなく、意思と思考から発せられた表現に、前向きに取り組む。	B		個々の実態に合わせた指導の工夫を検討していく。
	外 国 語	①生徒による授業評価「授業を通して、知識や技能(技術)が身に付いた」「授業を通して、考えたり表現したりする力が身に付いた」での肯定的意見 8 割以上	・個々の理解度を十分に計り、必要に応じて個別に対応しながら、基礎基本の定着を図る。	A	A	次年度も継続していく。
			・ICT を積極的に活用することで生徒の学習意欲が高まるように工夫をし、分かる授業に繋げていく。	A		次年度も継続していく。
		②英検の受験を奨励する。	・授業を通して生徒の受験を促し、希望者に対して課外指導を実施する、また二次試験に対応できるよう指導する。	A		次年度も継続していく。検定の受験を奨励する。
			・英検で能力が試される四技能を伸ばすために、授業における生徒主体の活動内容を検討する。	B		
		③入試に対応した実力を身につけさせる。	・上級学校受験希望生徒のニーズに応じた、より高度な授業を展開する。	B		生徒の理解度を測りながら手段を検討していく。
			・基礎学力の定着を図り、更なる実力向上のため、放課後などに課外授業を行い、受験対策をする。	A		
	家 庭	① 生徒による授業評価「授業を通して、知識や技能(技術)が身に付いた」「授業を通して、考えたり表現したりする力が身に付いた」での肯定的意見 8 割以上。	・日常に沿った課題を提示し、生徒の実態に合わせた授業を展開できるようにする。	A	A	次年度も継続して実施する。
			・実習を多く取り入れ、T Tで指導を行い、きめ細やかに指導を行うことで技術の定着・苦手意識の改善を図る。	A		次年度も継続して実施する。
		②家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。	・ホームプロジェクトにより家庭生活の課題の発見と問題解決能力の育成を図る。	B		日常にも活かせるような課題の提示等をしていく。
			・学校クラブ活動を通して自分たちに可能な地域貢献を行う。	B		次年度も継続して実施する。
	情 報	① 情報活用の実践力を養う。	・情報モラルとリテラシーについて、実例を通して理解できるようにする。	B	B	基礎・基本の修得を図る。
			・自ら課題を見つけ、主体的に解決へ導くことができるような課題の設定を通して、学習態度を養う。	B		生徒が自ら活動できるような環境を整えていく。 継続して実施する。
		② 情報の科学的な理解を深める。	・実習を通して情報手段の特性や情報の適切な扱い方を理解し、情報を活用できるようにする。	A		日常にも活かせるようにする。
			・情報セキュリティについて、映像教材や体験実習を通して理解させ、危機管理意識の向上を図る。	B		
	農 業	①農業教育に係る実践教育をとおして学力の定着や主体的に学ぶ意識を育成する。	・ICT を活用した授業を推進し、より良い授業、実験や実習を提供する。	B	A	継続して目標達成を目指す。
			・授業や農業クラブ活動においてプロジェクト学習や探究学習を実施する。	A		継続して実施する。
			・教員が農業教育に係る研修会等に参加する。	A		
		②農業教育をとおして、個々の生徒に応じた活躍の場を設け、自己肯定感の醸成を目指す。	・農業クラブ行事に参加する。（各種会議、研修会、発表会、競技会、大会や会議等の運営等）	A		継続して実施する。
			・地域貢献に係る行事を実施し参加する。（花壇整備、美化活動、販売活動等）	A		継続して目標達成を目指す。
			・農業のインターンシップの機会を設ける。			
		③農業教育をとおして地域貢献、地域資源の活用を実践する。	・学校 HP など地域にグリーンテクノの活動情報等を発信する。	C		方策を検討して目標達成を目指す。
			・茨城県、稲敷市、企業や農家、上級学校等との連携活動を実施する。	A		継続して実施する。

科	工業		・農業改良普及センターや農業に係る県の出先機関との連携を実施する。			
		①規律ある態度の育成をする。	・実習服の正しい着用の徹底、実習を受ける姿勢、実習に取り組む基本的な態度を育成する。	A	A	継続していく。
		②学習内容の厳選を行う。	・実習内容・方法の再構築を行う。	B		来年度に向け検討を続ける
	③学校と地域の連携を深め、地域貢献、地域共生を実践する。	・出前授業や作品展示を通して地元中学校との交流を図り、ものづくりの楽しさやメカニカルテクノロジーの取り組みを伝えながら、地元に戻元できる人財を育てる。	A	継続していく。		
	福祉	①生徒による授業評価「授業を通して、知識や技能(技術)が身に付いた」「授業を通して、考えたり表現したりする力が身に付いた」ことでの肯定的な意見8割以上	・社会福祉や介護の基礎的・基本的な知識や技術を総合的に学ぶ。	A	A	継続。
			・校外での介護実習を通して、より実践的な態度を育てる。	B		次年度検討。
			・生徒の能力と実態に合わせて、ICTを活用し、授業を工夫・改善する。	A		継続。
			・主体的に学習する態度を身に付け、意欲的に課題解決能力を形成する。	B		次年度検討。
		②介護従事者としての専門的な知識・技術を習得し、育成する。	・対人援助を行う際のマナーについて生徒自らが認識し、あるべき姿を考えられるようにする。	B		次年度検討。
			・福祉や介護について、看護の分野をなどから専門的な知識・技術の習得をする。	A		継続。
		③地域行事等に積極的に参加し、地域に戻元できる人材を育てる。	・学校間交流等の行事への参加や実習・就職を通して、地域との連携を図る。	A		継続。
			・「生徒活き活き育成プラン」の事業を通して、地域との連携を図る。	B		次年度検討。
教 務	①学習環境の整備及び授業改善の推進を図る。	・授業の振替を確実に行うことにより授業時間を確保する。	A	A	次年度も継続して行う。	
		・各教科と連携を図りICTを積極的に活用することで、生徒が知識・技能や考えたり表現したりする力を身に付けられるよう授業を改善する。	B		授業改善につながるようなICTの活用を教務として考える。	
	②教育課程や校内諸規程の見直しを検討する。	・教育課程検討委員会等により、教育課程の問題点を共有し、解決策を見出す。	A		次年度も継続して行う。	
		・校内諸規程の見直しを継続して進める。	B		次年度も継続して行う。	
	③地域との連携を推進する。	・チャレンジ・プロジェクト事業をもとに、地域との連携を充実させる。	A		地域連携をより充実したものにする。	
		・学校説明会(模擬授業、部活動体験等)を通し、特色ある本校の教育活動を積極的に広報する。	B		参加人数が増えるような広報を検討する。	
生徒支援	①生徒の規範意識を高めると共に、基本的生活習慣の向上に努める。	・生徒との信頼関係の構築を重視し、面談や声かけなど、心に響く指導を展開する。	A	A	次年度も継続して行う。	
		・規範意識や基本的生活習慣の向上と定着を図るため、職員全員で積極的な声かけを行う。	B		次年度も継続して行う。	
		・ルールやマナーを尊重する態度を育成するため、職員間、職員と保護者の連携体制を強化する。	A		次年度も継続して行う。	
	②自他の生命を尊重する精神を養うと共に、豊かな心を育成する。	・自他の生命、尊厳を尊重する精神を養うため、HR、年次集会や各種講話の充実を図る。	B		次年度も継続して行う。	
		・交通マナーや交通安全の意識の向上を促すため、定期的な登下校指導、自転車・バイク点検、安全運転講習会を実施する。	A		次年度も継続して行う。	
進路指導	①生徒個々が適した進路選択をし、実現を目指す。	・2年次と連携してインターンシップを実施し、将来就きたい職業について考えさせる。	B	A	次年度も継続して行う。	
		・卒業生講話や進路報告会を実施し、将来の進路選択を決定させる機会とする。	A		次年度も継続して行う。	
		・地域の大学と連携し、大学体験会を実施する。	A		次年度も継続して行う。	
	②進路情報を進路指導部や各年次と共有し、生徒に進路選択の情報提供に努める。	・Google classroomを利用して、最新の進路情報の提供と共有を行う。	A		次年度も継続して行う。	
		・進路閲覧室の整備や廊下のポスター類の掲示などにより、生徒に最新の情報を提供できる環境を整備する。	B		引き続き生徒が情報を得やすいよう環境整備に努める。	
	③進路希望実現のための指導方法を確立する。	・年次ごとの取り組みを共有し、次年度へも継承できる体制を構築する。	B		より情報共有を密に行い、充実した進路指導ができるようにする。	
	①キャリアパスポートについて本校の「江総ポートフォリオ」を活用	・生徒会定例会を毎週開き、本部役員の意識向上と資質の向上を図る。	A		継続して生徒会主体の運営を心掛ける。	

特別活動	し、行事を通じてキャリア形成を図る。	・江陵祭実行委員・クラスマッチ実行委員・応援委員等について、本部役員以外の多数の生徒が運営に参加し、主体的な活動ができるように支援する。活動に関しては、「江総ポートフォリオ」に記録し、振り返りができるようにする。	B		活動の振り返りを充実させる。	
	②部（クラブ）活動・委員会活動の活性化を図る。	・部活動説明会、体験会等を実施し、生徒が積極的に部活動などに加入・参加できるようにする。	B		加入率の向上をさせたい。	
		・年3回の各種委員会を設定し、目標設定・計画立案・反省・評価ができるようにする。	B		個々の委員会が積極的に活動すべきと感じる。	
	③地域行事へ積極的に参加する。	・地元自治体と連携し、自治体主催の行事や「生徒活き活き育成プラン」等の事業を通して、地域の行事へ積極的に参加できるようにする。	B		自治体と連携した取り組み・活動の充実を目指す。	
保健厚生	①学校環境の整備、美化に努める。	・ゴミの分別回収、清掃分担区域の清掃の徹底を図る。	B	A	生徒への周知徹底。	
		・環境美化委員会の活性化を図る。	A		活動の機会を増やす。	
	②健康について意識の高揚を図る。	・身体測定、健康診断を一斉実施し、「保健だより」による情報提供をする。	A		定期的に配信する。	
		・保健委員会の活性化を図る。	B		活動の機会を増やす。	
	③防災、安全衛生点検に努める。	・事故の未然防止を図るための避難訓練および校舎内外の点検、水質検査を実施する。	A		定期的な実施を行う。	
図 書	①生徒主体の図書室運営。 図書委員の積極的な活用。	・図書委員によるカウンター業務、装飾、選書、図書だよりの記事作成を指導する。	A	A	自主的、基礎的な活動の両立。	
		・幹事校として交流会を主催し、研修内容を本校図書委員会の活動に活かす。	A		本を利用したお菓子作りやPOP作成などのイベントを増やす。	
		・読書感想文、ビブリオバトル等の参加者を募り、指導する。				
	②図書の来館者数・貸出冊数を増加させる。	・図書委員会によるイベントを実施する。				
		・図書購入希望調査、新着本の連絡をclassroomで生徒、職員に通知する。	A		総合学科であるが教科・系列や産社・探究学習につながる図書の要望が少ないことが課題。	
	③蔵書の管理を図る。	・図書委員に購入図書の選書をさせる。				
・教科、分掌にも図書の要望を依頼する。						
渉 外	①PTA活動の充実を図る。	・書籍資料の受入を速やかに行う。	A	A	読書活動推進のために継続。	
		・定期的を除籍を行う。教科、分掌にも除籍の協力を依頼し、実態に合った蔵書になるよう努める。	B		除籍を量・質ともに適切に行い使いやすい書架にすることが課題。	
	②教育環境の整備・充実を図る。	・PTA会員による活動を周知し、会員の行事への参加率を高める。	A		次年度も継続して行う。	
		・家庭と学校との密接な連携を目指し、会報誌の発行や学校行事等への積極的な参加を呼びかける。	A		次年度も継続して行う。	
		③会員相互の親睦を図る。	・登校・校外指導を通じ、生徒の規範意識、基本的生活習慣の定着を図る。		A	次年度も継続して行う。
			・生徒・保護者からの声を聞き、よりよい校内環境を整えられるよう努める。		A	次年度も継続して行う。
情 報	①情報セキュリティを徹底する。	・研修を計画することで、アイデアを募り、会員相互の親睦を図る。	A	次年度も継続して行う。		
		・同窓会・後援会との連絡を密にし、学校行事等への一層の理解と協力を得る。	A	次年度も継続して行う。		
	②ICT環境整備・支援を行う。	・教職員のセキュリティポリシー意識を高め、遵守させる。	A	A	次年度も継続して行う。	
		・情報資産の洗い出し・整理・廃棄・メンテナンスを実施する。	A		次年度も継続して行う。	
	③情報モラルを徹底する。	・ICT機器・ネット環境の動作点検、速度確認を行う。	A		次年度も継続して行う。	
		・初歩的な段階からのICT研修を実施し、作業時間の削減と働き方改革につなげる。	B		研修機会を増やして行く。	
	①基本的生活習慣を確立する。	・教職員の情報モラルを高める。	A	次年度も継続して行う。		
		・生徒の情報モラルを高める。	A	次年度も継続して行う。		
	②社会性の向上を図る。	・挨拶の励行や標準服の正しい着用、時間の厳守等、基本的生活習慣の確立を図る。	A	A	基本的生活習慣では、時間厳守は身につけてきたが、服装や身だしなみの崩れが見られ始めたので、次年度は徹底して行う。	
・学校が自己実現の場として最大限の機能を果たせるよう、常に環境改善に努める。	A					

1 年次		・ 周囲に感謝する心や互いに助け合う精神、思いやり、多様な意見を尊重する姿勢を醸成する。	A		生徒一人一人に合わせた指導を行っていく。 将来の進路決定に向けた準備（個人面談・ガイダンス等）を行っていく。
	③ 進路目標を設定し、基礎学力の定着を図る。	・ 日々の授業を大切にし、自ら考え、自ら学ぶ姿勢や主体性のある意識の向上を図る。	B		
		・ 検定等の資格取得を推奨し、進路意識を持たせながら学習意欲の向上に努める。	A		
2 年次	① 基本的生活習慣を確立する。	・ 挨拶の励行や標準服の正しい着用、時間の厳守等、基本的生活習慣の確立を図る。	B	B	進学課外を実施する。 メリハリをつけさせる。 進路意識を向上させる。 スマートフォンの不適切使用を減らす。 嫌なことから逃げない気持ちをもたせる。 進路決定に向け、ガイダンスを優先的に行いたい。 校則順守（化粧、制服の着崩し、染髪など）。
		・ 学校が自己実現の場として最大限の機能を果たせるように常に環境改善に努める。	B		
		・ 家庭と学校が連絡を密接に行い、連携して生徒の生活習慣の獲得に努める。	B		
	② 社会性の向上を図る。	・ 善悪を判断する力、正義感、公共のルールやマナーを守る姿勢を身に付けさせる。	B		
		・ 周囲に感謝する心や互いに助け合う精神、思いやり、多様な意見を尊重する姿勢を醸成する。	A		
		・ 勤労体験、修学旅行等の校外諸活動を通して、社会性の向上と心の育成を図る。	A		
	③ 進路実現に向けた方向性の確立及び学力の向上を図る。	・ 日々の授業を大切にし、自ら考え、自ら学び、主体的な姿勢や意識の向上を図る。	B		
		・ 検定等の資格取得を推奨し、進路意識を持たせながら学習意欲の向上に努める。	A		
3 年次	① 生徒の希望や適正に応じた進路の実現を図る。	・ 進路指導部との連携・協働で生徒の進路に対する意識を高め、進路実現を目指す。	A	A	進学希望者への学習指導の実施を検討していく。 個々の生徒の実態に応じた指導方法を検討していく。 引き続き家庭との信頼関係を保ち、連携して生徒支援ができるようにする。
		・ 総合的な探究や個別対応を通して必要な情報を提供し、適切な進路指導を行う。	B		
	② 基本的生活習慣を確立する。	・ 挨拶の励行や標準服の正しい着用、時間の厳守等、基本的生活習慣の確立を図る。	A		
		・ 学校が自己実現の場として最大限の機能を果たせるように常に環境改善に努める。	B		
		・ 家庭と学校が連絡を密接に行い、連携して生徒の生活習慣の獲得に努める。	A		
	③ 社会性の向上を図る。	・ 善悪を判断する力、正義感、思いやり、公共のルールやマナーを守る姿勢を身に付けさせる。	A		
		・ 周囲に感謝する心や互いに助け合う精神、多様な意見を尊重する姿勢を醸成する。	A		
		・ 校外諸活動を通して、社会性の向上と心の育成を図る。	B		

※評価基準： A：十分達成できた B：達成できた C：やや不十分だった D：不十分だった